

# SHIN CLUB 242

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「1511ビル」 Photo : Kazuki Watanave

## NY

写真は、昨年 11 月にお引渡しした法律事務所を併設した住宅です。神宮外苑の銀杏並木のすぐ近く、静かな小道に面しています。

建て主の榎實秀幸様は、このご自宅兼事務所を建築する際、30 年来の友人である大塚彰宏氏と、アメリカで知り合った西本尚子氏のお二人に設計を依頼したいと考え、この度のコラボレーションが実現しました。

榎様からの数少ないご要望に「とにかく頑丈なもの」とあったため、大塚氏は RC 造を選択、施工は江尻建築構造設計事務所の紹介で辰に依頼されました。

デザインについては、基本的にお任せ。ただし、ニューヨーク（以下 NY）に住まれたこともあり、NY という街が大好きな榎様が、「NY を感じられるものを」というお題を出されました。そして最後に「雑誌に載るような素敵なデザインのもの」と一言付け加えられました。

さて、NY を感じられるとはどういう感じなのでしょう？

古いビルを一棟丸ごと買ってリニューアルするのが、ニューヨーカーのスタイルと聞いたことはありますが、留学したことのある西本氏はどんなイメージを持っていたのでしょうか。

「留学で最初にヨーロッパに行きましたが、古い建物がとにかく多いという印象でした。一方で NY は特徴的なデザインを取り入れた新築の建物が年々数多く建築されているのですが、築 50 年を超える古い建物も多く、古い建物はリノベーションしてかっこよく使っていて、ロフトという一つのスタイルになっています。最先端の国・都市に行きたいと思い NY を留学先を選びましたが、NY で街歩きをするうちに、新しいものと古いものが混ざりあっている街並みがとても気に入りました。榎様のお話を伺っていると、建築に限らず重厚感があり、落ち着いた趣の物が好

みのように感じました。」

大塚氏も、「新しいものではなく、すごく古いものでもなく、少し前の彫りが深くて味のあるいぶし銀のような建物。それらが街並みを作っていて、それが NY らしさなんじゃないかな」と振り返ります。

「1511ビル」もシンプルな縦長の開口部に外苑の緑の木々が映り込み、上品な雰囲気落ち着いた色の外壁が法律事務所の信頼感、安定感を表しています。

ちなみにこれまでリノベーション物件を多く手掛けてきた大塚氏は当初、竣工写真をカメラマンに依頼したとき、新築ではなくリノベーション物件と勘違いされたといいます。

「でもそれは設計者としての狙い通りのイメージを持ってもらえたわけで、『シメた!』と思いました」と大塚氏。

新築の建物でありながら、あたかも元から建っていたかのように違和感がなく、確かに建物が自然な街並みを形作っています。

「単純なコピーではない、『東京での NY らしさ』を実現したかった」と口を揃えられる大塚氏と西本氏。榎様もその出来栄にはご満足のようなです。

そんな NY ですが、この新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中、都市封鎖という事態に見舞われ、人っ子一人いない風景が TV に映し出されていました。人口などの規模が NY とよく比較される東京も他人事ではありません。政府は 4 月 7 日、「緊急事態宣言」を出しました。全現場停止措置をとった会社もあり、弊社も、現場の衛生管理の徹底はもとより、建築資材の入荷など影響が出始めることは否めませんが、できるだけ皆様にご迷惑をかけることがないように、一致団結して対応してまいります。



# 1511ビル



縦長の開口部が神宮外苑の銀杏並木の緑を映し出す。外壁は東邦レオの外断熱エコサームを採用



3階事務所スペース昼景



5階オーナー邸部分。ミニマルな空間

構造：RC造  
 規模：地上5階  
 用途：事務所・住宅  
 設計・監理：大塚彰宏／アオ建築事務所  
 + 西本尚子／NISHIKEN architect design  
 構造設計：江尻建築構造設計事務所  
 竣工：2019年11月  
 施工担当：鯨津・竹原・鈴木（修次）  
 撮影：Kazuki Watanave

## 外苑の銀杏並木を臨む、NYテイストの事務所併用住宅

以前は自邸と法律事務所を別々に所有されていた建て主から、それらをまとめたという相談をいただき、当初は中古物件を購入してのリノベーションも検討していたが、最終的に神宮外苑の銀杏並木の側の土地に運命的に出会ったことから、事務所兼自宅を新築することとなった。

機能面から外断熱のRC造を選択し、「NY かぶれ」を自称する建て主のデザインへの想いを実現させた。神宮外苑の借景を活かしながら、上品なファサードと大胆なインテリアの『ギャップ』をコンセプトに、指名された2人の設計者で要望に応じていくこととなった。

RC造により堅牢性を担保し、外断熱にすることで内部の有効面積を少しでも増やし、温熱環境を含めた居住性を高めた（大塚）

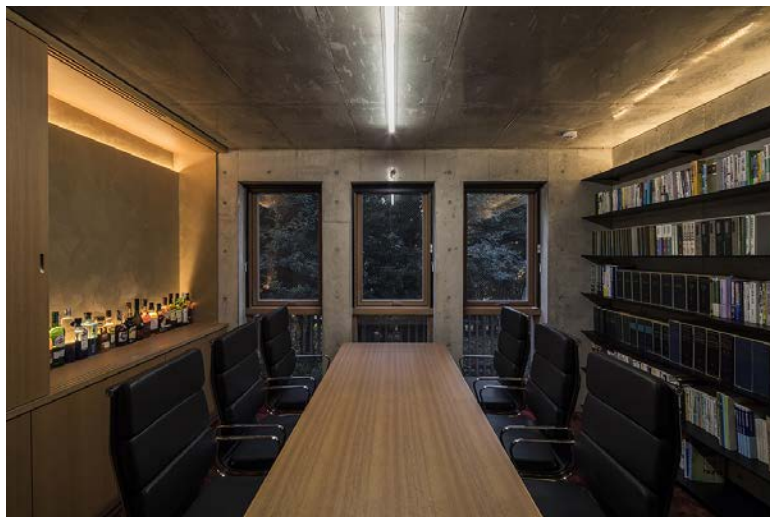
「NYらしさ」を、「控えめで彫りの深いファサード」と解釈し、木製建具を用いて陰影のある縦長の規則的な開口部でファサードを作り、壁はテクスチャーを感じさせる塗り壁で仕上げようと考えた（大塚）

弁護士という堅実なお仕事に就く方でありながら、突然海外留学に飛び出すような自由さをお持ちの建て主に、内面と外面のギャップを感じ、そんな私達の感じる建て主の「ギャップ」をコンセプトに取り入れ、落ち着いた雰囲気の外観と、コンクリート打ち放しの空間にレッドカーペットを敷く、といった過激なインテリアを対比させたいと考えた（西本）

1、2階は会議室、3、4階が事務所スペース、5階がオーナー邸。各フロア1ルームで、奥の階段でアクセスする。それぞれコンクリート打ち放しの内部に、資料の重さに耐えられるスチールの本棚を設えたりするなど、ラフな内装とした。階段の段裏も現しとなるので施工では苦労して頂いた。2階会議室には、建て主のもう一つの希望である「友人が集うサロン」としての機能を持たせている。左側の壁面収納をオープンにするとミニバーが現れ、照明も変化を付け、昼と夜ではガラッと表情が変わる。

5階のオーナー邸は、敷地の小ささに加えて斜線規制により切り取られる非常に小さなスペースを少しでも有効に使うため、また建て主が元来モノを持たない主義の方でもあり、必要最低限の設えとしている。仕切りをなくし、トイレ、シャワールームもガラス張りとし、洗面も階段脇にかなりアクロパティックな形で設置している。ベッドのあるロフトへのアクセスも壁に打ち込んだタラップのみとしたミニマルな空間となっている。

（大塚彰宏／アオ建築事務所 + 西本尚子／NISHIKEN architect design 談）



2階会議室夜景。左側はオフミーティングに相應るミニバーコーナー。ハイムスペースのメタリックな塗装を大塚氏、西本氏ご自身で施工



5階オーナー邸開口部。銀杏並木の夕景が美しい



建物東側の階段



夜景。照明にビル名の「1511」が照らし出される

# Akihiro Otsuka

# Shoko Nishimoto



西本尚子氏（左）と大塚彰宏氏（右）「1151ビル」2階会議室で

今月は、「1151ビル」の二人の設計者にお話を伺います。10歳以上年が離れた二人は建て主の希望で初コラボレーションとなりました。

—まず大塚さんから事務所のご紹介をしたいのですが、事務所名の「アオ」とはどういう意味ですか。

大塚：アオ（ao）とはもちろん私、大塚彰宏のイニシャルもありますが、ハワイ語をはじめとするポリネシア語系の言葉で「光」とか「大地」「雲」などを意味します。光が作り出す空間、大地（環境）にしっかり根差した、雲のようにふわっとした、自由な建物を作りたいという気持ちで「アオ建築事務所」と名付けました。

—榎實様とはいつ頃からの付き合いですか。

大塚：中高時代、鹿児島県の学校に通っていて、寮に住んでいたのですが榎實さんとはその時からの付き合いで、文字通り「同じ釜の飯を食った仲」です。

大学からは別々の進路を歩むことになり、榎實さんが NY に留学する一方で、私は東京で建築を勉強し、大学院を出てからスイスのイタリア語圏の建築の大学（Accademia di Architettura）に1年間通いました。スイス留学に限らず、学生時代からヨーロッパ、特にイタリアには幾度か通いました。古い建物が街並みを形作り、それらに新しいデザインを施しながらうまく使いこなし、受け継ぐ文化。そういう空気がとても性に合いました。私の設計の拠り所とする価値観はこの経験によるところが大きいです。

帰国後は、石本建築事務所ですイタリア・ナポリの大学キャンパス計画や、幼稚園、保育園などの設計を担当しました。その後、ブルースタジオという、リノベーションという言葉がまだ一般的ではなかった20年程前からリノベーションと銘打って古い建物の改修と活用に取り組んできた会社に移り、様々なプロジェクトを担当しました。

ブルースタジオ出身ということもあり改修専門と思われることも少なくありませんが、僕の中では新築であれ改修であれ、様々な条件を整理して最適解を見つける作業であるという意味で変わらないと考えています。実際今回のお仕事も、当初は他物件の改修も含めて検討しました。とはいえ、独立してから初めての改修のお仕事を、誰もが知っている青山という場所で形にできたのは、大変栄光で嬉しいことです。

—西本さんは、どういうきっかけで榎實様と出会われたのですか？

西本：私がアメリカ留学中に、ボストン大学の同窓会にやってこられた榎實様とお話する機会があって、帰国後お会いしていく中で、設計のお話をいただけたのです。榎實様はアメリカの大学卒業後、帰国して改め

て弁護士の資格を取られ、ご自身の弁護士事務所を立ち上げたというチャレンジ精神のある方なんです。私も実は帰国後、一級建築士の資格を取り、この仕事に自分の建築設計事務所を立ち上げることができました。

—そうだったんですか。

西本：専門学校を出てから防音工事専門の会社に入り、その後、学生の時の恩師有田佳生先生の建築設計事務所に入りました。それからイタリアに3か月留学し、現地の事務所でインターンをしました。古いものが残っている海外の文化の良さを感じながら、もっと長い期間行けるとしたらどの国がいいかなと考えて NY を選びました。そしてイタリア帰国後、NY 留学の費用を貯めるために実家の株式会社西本建設で仕事をし、フリーランスになりました。

「Connecting The Dots」というシェアオフィス・コワーキングを手掛ける会社の社長と知り合って、そこでインテリアのお仕事をさせていただくことができました。

勉強はあまりしてこなかったのですが、仕事は早い段階からしてきましたし、ヒトと関わるのが好きだったこともあり、新しい環境に一人で飛び込んで経験したフリーランスの仕事はとても貴重だったと思います。そして念願の NY へ留学しました。

—ずいぶんパワフルに動いてこられたのですか。

西本：帰国後は「早く新築も建てられるようになりたい」と設計事務所の門をたたくことも考えたのですが、フリーランスで仕事を始めた経験もありますし、先にお仕事をやらせていただいて、その間に自分の名前を事務所として書けるようにと一級建築士の資格を取ったのです。この工事の計画が少し遅れたことも幸いしました。

—一級建築士の試験はそんなに簡単に通らないのではないですか？

西本：帰国したとしばらく知人には言わないで、1年間こっそり引きこもって勉強していました（笑）試験後、ライフステージでも変化があり、結婚。榎實様と大塚さんにも式後のパーティーに出させていただきました。今、子供が1歳8か月になったのですが、この現場が着工したときに保育園に入れたんです。その前は近所の方に面倒見てもらいながら、打ち合わせに出していました。現場にも赤ちゃんを連れていったりして、皆さん理解があって温かい方ばかりでした。

大塚：本当に元氣印なんです（笑）おかげで楽しく仕事をすることができました。

—楽しいコラボレーションだったようですね。どうもありがとうございました。

大塚彰宏（おおつか あきひろ）

1976年 大阪府生まれ  
東京大学工学部建築学科卒業  
同大学院新領域創成科学研究科・社会文化環境講座修了  
Accademia di Architettura（スイス政府給費留学）

【職歴】（株）石本建築事務所、（株）ブルースタジオ  
2014年 アオ建築事務所設立

<http://www.a-o-design.com>  
<https://www.facebook.com/ao.design.japan/>

西本尚子（にしもと しょうこ）

1987年 岡山県生まれ  
日本工学院専門学校卒業  
有田佳生建築設計事務所  
（株）西本建設勤務  
イタリアでインターンとアメリカ留学

帰国後、一級建築士取得  
2018年 NISHIKEN architect design 設立

<https://www.nishi-ken-design.com/>



～新型コロナウイルス対応にあたり～

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
この度の新型コロナウイルス感染拡大により、皆様、不安な日々を過ごされていることと存じます。全世界において、一日も早い終息を祈るばかりです。

弊社は4月7日の「緊急事態宣言」および「都知事からの要請」を受けて新型コロナウイルス感染拡大防止のため、作業所職員および職方、本社営業所職員の健康状態に留意し、入場入室制限等の対策を講じたうえで、事業を継続させていただいております（4月24日現在）  
やむなく休業されている企業も多い中、賛否はあると存じますが、皆様にはできるだけご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っておりますので、ご理解いただくと幸いです。

今月に入り、創業以来はじめてテレワークも導入しました。試験的ではありますが効果に疑義は生じますが、出勤抑制や時差出勤等いわゆる三密の回避に取り組んでおります。  
お打合せについても関係者の皆様にはご不便をお掛けしております

が、少人数または Web 会議等で対応しております。  
弊社におきましては、各作業所関係者を含め幸いにも感染者が発生していません。

しかしながら、建築資機材・設備機器等の供給には少なからず影響が出ております。施工会社として、情報収集および最善手配により予定通りの工事完成を目指しますが、今後の状況により工程遅延も大いに懸念されます。関係者の皆様には、ご賢察の上ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

このような時だからこそ、弊社の強みである無借金経営は活かされます。社は「信義は万事の基」を強く意識し、全社員一丸となってこの難局を乗り切ります。

令和 2 年 4 月 24 日

株式会社 辰  
代表取締役 岩本 健寿

「森村会長、千駄ヶ谷の現場で若手社員を指導」 於：千駄ヶ谷駅前公衆便所改築工事現場 4月27日

3月より始まった千駄ヶ谷駅前の工事現場に、弊社森村和男会長が自ら現場員として常駐、若手の育成にご尽力いただいております。

2018年12月現社長に席を譲り、実務からは退いていらした森村会長。昨年はグループ HD の役員に就任されておりました。しかし昨今のコロナ



現場ゲート前で。看板シートのデザインは五輪エンブレムの野老朝雄氏

ウイルスの状況を鑑み、来る大きな経済危機を乗り切るために、一兵卒として現場から問題を探りたいとのことです。

「斬新な構造のチャレンジングな工事



国立競技場駅の出口に隣接

となる現場。若い社員たちには建築の醍醐味を感じて意欲的に仕事に取り組む辰イズムを、ぜひ引き継いでほしい」とその想いを語っていただきました。

谷尻誠氏率いる「SUPPOSE DESIGN OFFICE」の設計は 7.6m の高さの 2 本の太い柱から伸びた梁にコンクリートの外周壁が吊られ、地上から 50 cm 浮いた状態になるというもの。新型コロナウイルス感染拡大に対して「緊急事態宣言」が出ており、現場には更なる緊張感を求められていますが、無事に 7 月のお引渡しを迎えられますよう、社員もそのお気持ちに代えて頑張ってまいります。



外壁は50cm浮いた形に



首都高脇の狭小スペース

構造：RC造ラーメン構造  
規模：地上1階  
用途：公衆便所  
設計・監理：SUPPOSE DESIGN OFFICE  
担当：鯨津、鍋島、森村  
完成予定：2020年7月

「(仮称)南青山23ANNEX棟」新築工事  
安全祈願祭 2020年4月24日



2階建ての隠れ家的な建物を建築させていただきます。

構造：RC造  
規模：地上2階  
用途：物販店舗  
設計・監理：リボックス  
建築環境計画  
完成予定：2020年9月

「渋谷区建設業協会に入会」 4月1日

令和2年4月1日付けで「株式会社辰」は渋谷区建設業協会に入会いたしました。

既に所属している東京都建設業協会は、東京都内に本店・支店などの常設的な営業所を設け、土木工事業または建築工事業の特定建設業許可を受けて建設業を営む法人を会員とする総合建設業者の団体です。都内に7つの支部があり、令和2年3月31日現在で278社の会員を擁しております。

今回、新たに渋谷区建設業協会にも入会し、地域の皆様と共にさらに建設業界全体を盛り上げるために、積極的に活動してまいります。



編集後記

・新型コロナウイルス、いつ終息するか先が見えない中、経済への影響も大きくなりつつあります。「STAY HOME」を基本に、日々の暮らしの中で助け合えることは何か、模索の日々が続きます。

(株)辰通信 Vol.242 発行日 2020年5月10日 編集人：松村典子 発行人：岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450  
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」は WEB 上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。  
<http://www.esna.co.jp/shinclub>  
スマホはこちらから →

